

令和元年度

一般社団法人 埼玉県歯科技工士会

歯科技工士生涯研修事業(自由研修課程)



講師:佐野 和也 先生

株式会社 サヤカ 技工部長

「床副子製作の視点から考える
補綴装置に付与すべき形態について」

13:05~14:55



講師:三輪 武人 先生

有限会社 協和デンタルラボラトリー

アナログ技工とデジタル技工の再考

15:05~16:55

- 日 時:2019年7月21日(日)13:00~17:00 (受付開始12:30)
- 会 場:埼玉県歯科技工士専門学校 (講義室 3階)
埼玉県さいたま市見沼区東大宮1-12-35 (最寄駅:JR東大宮駅 徒歩約6分・裏面地図参照)
- 参加費:会員および未入会者ともに無料 (当日申込みでご参加できます)
- 定 員:60名 (会員は歯科技工士生涯研修カードを必ずご持参下さい・定員数に達した際は立ち見をご了承下さい)

主催:一般社団法人 埼玉県歯科技工士会

開催コード:94-51501(自由研修課程 8単位)

後援  公益社団法人 日本歯科技工士会

後援  厚生労働省

講師:佐野 和也 先生

- ・日本顎咬合学会
- ・日本歯科技工学会
- ・日本歯科技工士会
- ・JDA (Japan Denture Association)

【略歴】

- 2001年 埼玉歯科技工士専門学校研究科 卒業
- 2001年 株式会社サヤカ デンタル事業部 入社
- 2012年 日本顎咬合学会にて研究発表
- 2012年 歯科雑誌QDT記事「step ahead」掲載
- 2013年 JDA学術講演会 登壇
- 2014年 白水貿易デンチャーインストラクター 就任
- 2015年 埼玉歯科技工士専門学校学術講演会 登壇
- 2015年 日本歯科技工学会関東支部学術講演会 登壇
- 2016年 JPDA指導技工士
- 2018年 埼玉歯科技工士専門学校 有床義歯非常勤講師就任

「床副子製作の視点から考える補綴装置に付与すべき形態について」

今日、歯科技工においてCAD/CAMを代表するデジタル歯科技工技術が目覚ましい発展を遂げており、適合、コンタクト、歯冠形態などのクオリティを追った進化のスピードには驚かされることばかりです。デジタル歯科技工は私たちの労働を少し楽にしてくれます。しかし、機械が製作してくれるのは、歯科技工士が設計した形を様々なマテリアルに置き換えることであり、“考えて作る”ということではありません。故に、古典的な製作技法であっても、最新鋭式の機械であっても、“考えて作る”という歯科技工士の仕事は必ず必要になると思います。

歯科技工において“考えて作る”ということは、補綴物の外形のデザイン、構造体としての強度、歯の色、歯の形、マテリアルの耐久性、適合、コンタクト、バイトなどが歯科技工士の考える基本的なことだと思います。患者の体を歯から健康にするために、ということ考えると歯科技工士は少し視野を広げて思考する必要があると思います。

咬合再構成などの補綴をするためには、下顎位、顎関節、筋肉、骨格、呼吸などを考えた床副子(スプリント)の製作技術や生体に適応した咬合平面をデザインする能力が必要になります。

デジタル化によって少しずつ変化していく我々の働く環境ですが、歯科の役割を少しずつ知るたびに歯科医療の一端を担う歯科技工士の仕事の重要性や歯科の可能性を感じています。今回の講演では従来型の歯科技工とは少し違った模型の見方や考え方、歯と筋骨格とどのような関係性にあるか、補綴装置が患者に与える様々な影響を歯科技工士としてどのように考えているかということをお話しさせていただこうと思います。

講師:三輪 武人 先生

- ・(公社)日本歯科技工士会

【略歴】

- 1998年 埼玉歯科技工士専門学校卒業
- 1998年 (有)協和デンタルラボラトリー入社
- 2004年 The Total Grade Up Seminar 修了
- 2008年 日本口腔インプラント学会認定技工士取得
- 2010年 臨床咬合研究会セミナー 修了
- 2011年 埼玉歯科技工士専門学校専攻科非常勤講師
- 2013年 oral design彩雲コース 修了

アナログ技工とデジタル技工の再考

歯科技工にCAD/CAM製の補綴装置が普及し始めてから現在、その流れは加速度的に増加しているように感じている。デジタル技工はデータの活用方、デジタルデザインの習得方、それに伴う考え方などまだまだ確率されていないのが現状ではなかろうか。

一方アナログの補綴装置は先人達による知恵により、匠の技を継承し発展させ現在普遍的に扱われている。しかしながらその中でも間接法、ヒューマンエラー等の問題も存在する。

その様な中で今一度アナログ技工とデジタル技工を再考し、今後の歯科技工を考える機会としたい。



CREATIVE THINKING

